

「ムラサキカタバミの球根」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

カタバミの近縁種に「ムラサキカタバミ」という野草がある。実は「野草」というのは正確ではなく、もともとは観賞用に海外から持ち込まれたものが、野生帰化したものである。本家のカタバミよりも葉も花も大型で、「園芸植物」という感じに見える。決して稀ではなく、本校のある大学構内にも普通である。



花もカタバミよりも大型で、赤紫の色鮮やかな花弁を持つ。しかし、雄蕊や雌蕊はカタバミよりもずっと短く、退化しているように見える。周囲を探しても、カタバミのような果実の一つも見られない。ムラサキカタバミは種子をつくらない植物なのだ。正確にはつくる必要がないのである。

種子をつくらないということは、花は咲いても意味を成さない。かつて種子をつくっていた時代の名残なのであろう。そのかわり、ムラサキカタバミは、地下に比較的大きな球根を持つ。

一口に「球根」といっても、実はさまざまな形態が存在する。サツマイモは「塊根(かいこん)」、ジャガイモは「塊茎(かいけい)」、ハスは「根茎(こんけい)」と呼ぶ。チューリップやユリのような典型的な球根は、「鱗茎(りんけい)」と呼ばれる。ムラサキカタバミの球根も鱗茎の形態をとる。



(上)
ムラサキカタバミの全体像



(左)
ムラサキカタバミの鱗茎(球根)

ムラサキカタバミは、この大きな球根の周囲に小さな球根をつくって繁殖する。種子による繁殖を捨てるという選択をしたわけだ。では、他の個体との交配はどうしているのだろうか？心配になってしまった。